

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない

秋田小町

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

アニメが好きな主人公が転生した世界は影実の世界だった。主人公はクレア様とイプシロンが好きなので二人に近づこうとするが…

目次

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 1	1
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 2	4
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 3	7
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 4	9
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 5	11
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 6	13
クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づかない 7	15

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない¹

僕の名前はジョン・アリ転生者だ。

自分が転生者だと言うことはわかってはいるがこの世界が普通の異世界なのかアニメとかの世界なのかまだわかっていない。

前世での僕はどこにでもいるただのアニオタだった。

高校に通い友達とアニメの話をして普通に授業を受け放課後遊んだりする一般的なオタク高校生だった。

特に何事もなく高校2年生最後の期末テストも終わり友達とカラオケに行きいつもより帰りが遅くなり電車を待っていたら後ろから酔っ払いにぶつかられて体制を崩しそのまま線路に落つこちら轢かれて死んでしまった。

そんな前世だった僕は最初に触れた通り転生したみたいだ。

ただ神様にあつたとか特にそんなことは無くただ転生したみたいだ。

今日は転生して僕がこの世界に生まれてから5年がたった。

僕の生まれはある程度大きな貴族で貴族同士の食事会に行くらしい。

この食事会ではお互いの子供を合わせたりして軽い縁談の話なんかもされるらしい。

僕は年齢的に関係ないだろうと思い親について食事会に行った。

食事会で名前を聞いて分かったのだがこの世界は陰の実力者になりたくて！の世界らしい。

食事会で挨拶周りをしている時にミドガル王国と言われたしアイリス様とアレクシア様がいた。

他にも主人公であるシドやその姉クレア様がいた。

食事会も終わり数日が経った頃両親から縁談の話がされた。

この間の食事会で何人かから縁談が来ていることそして僕が気に入った人はいろのか等聞かれた。

アニメで見ていて声が好きだったこともありクレア様のことを伝えた。

僕は生前では陰の実力者になりたくてはアニメだけしか見てなかったがクレア様とイプシロンを推していた。

この二人に会うためにはシドに近づく必要もあるため推しでもあるし可愛いと思っているクレア様の名前を出した。

両親は僕からクレア様の名前を聞くと少し驚いた顔をしたが少し考えこんでから「わかったと」言われその話は終わった。

両親と話をしてから数日経ちいつも通り剣術の訓練をしていた。訓練をある程度して休憩をしていると両親がやってきてカゲノー家に行くことが決まったらしい。

また数日経ちクレア様との縁談のためにカゲノー家に向かうことになった。

僕の住んでいるところからある程度近かったみたいで外を眺めていたら着いた。

カゲノー家に着き男爵と夫人に挨拶しシドとクレア様に挨拶をした。

その日は縁談と言うよりは子供同士の顔合わせといった感じで交流をして終わった。

ただ僕は途中でシドと二人きりになり僕が転生者であることを伝え陰の実力者になる手伝いをする話を話した。

その日はクレア様と剣を交えたりシドと剣を交えたりお互いの話を軽くして終わった。

カゲノー家に行ってから数日経ちまた行くことになり前回と一緒に剣を交えたりして休んでいるとクレア様から話かけられた。

ただその内容が少し怖くて「シドと仲よくしたらもつと強く剣を振るうから」と言われた。

僕は忘れていてがクレア様は結構なブラコンだった。ただ僕としてはイプシロンに会いたかったのでシドと仲良くする必要

があったのでクレア様の要望には応えられない。

クレア様に近づきたいがシドと仲良くする必要があり近づけなく

なつた僕はこれからどうすればいいのだろうか？

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない？

クレア様から脅迫されてから数日経った。

徐々に魔力操作にも慣れてきて空を飛んだり色々とできるようになってきた。

剣術もシドと関わるとどうしてもクレア様と交えることになりそうなので日々鍛錬している。

こんな回想を頭の中でしているとまたカゲノー家に行くことが決まった。

今回はクレア様からのお誘いと言う事らしい。

お誘いの連絡が来てまた数日経ちカゲノー家に行く日になった。

カゲノー家に行く和家人全員で出迎えてくれた。

クレア様が僕に話があるといい僕を部屋に連れて行くとクレア様から「シドと仲良くしても良いからその代わりシドの事話なさい」と言われた。

僕は最初何を言っているのか良くわからずポカーンとしていたがそしたらクレア様に頭をたたかれた。

クレア様は僕を見下ろしながら「いいわね？」といい冷酷な笑みで僕に了承させた。

僕は心の中でこのブラコンが！と思うが顔には出さずシドに近づきながらクレア様にも近づけると思いながら了承した。

クレア様は僕から了承が取れると「じゃあ今日も剣を交えましょう」と言い部屋から出て外に向かった。

僕もクレア様についていくように外に出て準備運動を始めた。

クレア様は僕の準備が終わると「やるわよ」と言い模擬戦闘が始まった。

クレア様はアニメでも言われていた通りでもものすごく強いためなるべく気を抜かないようにして負けないようにでも勝たないように上手く調整して模擬戦闘をした。

最終的にはばれないようにクレア様に負けたが周りからは褒められた。

家ではあまり強くないように訓練していたのでちゃんと動けると思われてなかったのか褒められたみたいだ。

クレア様はまだ戦闘したりないのか今度はシドと模擬戦闘をしていた。

シドはわざとやられているみたいで見た感じ頭の中ではクレア様に勝っているがモブになるためにわざと負けているみたいだ。

シドとクレア様が終わるとクレア様が「今度はシドとジョナンがやりなさい」と言いシドと模擬戦闘をやらされることになった。

シドからは模擬戦闘があるときは僕に勝ってくれと言われていたのでクレア様とやった時よりシドと接戦を繰り返しシドに勝った。

そんなこんなで今日のお誘いも終わり帰ることになったが帰る前にシドから呼び出された。

シドに呼び出されたので部屋に行くと言われシドが中二病ポーズをしながら「今日の夜力を試すからジョナン君も夜にここに来い」と言われた。

その後クレア様に呼び出され「次からちゃんとシドの事教えてね」と言われたので「わかりました」と言いその日はお開きになった。

夜になりシドに指定された場所に向かうと言われシドは変装をして僕を待っていた。

シドに声をかけるとシドからスライムを渡され着替えるように言われた。

このスライムはシドが開発した物らしい。

シド曰く耐久性に優れていて魔力操作で操れるらしい。

シドに言われ着替えるとシドから「行くぞ」と言われ移動し始めた。移動しているとシドから「ここだ」と言われ目の前には山賊がいた。シドが山賊に襲い掛かり倒していく。

僕もクレア様では本気が出せないため山賊相手に練習をした。

山賊を倒し終わるとシドは財宝を漁り始めた。

その中に悪魔付きの肉塊が入った檻がありシドはその檻を持って

人のいない空き家に持って行った。

僕はこの悪魔付きがアルファだと知っていてそのうち悪魔付きが解けるのがわかっていたので特に何もせずついていった。

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない3

あの山賊を襲撃してからしばらくたったある日シドから呼びだされて夜中にアルファになる悪魔付きの肉塊がある家に行った。

家に行くところになっていたのは肉塊ではなくアルファだった。

シドがアルファに向かって「彼は僕の仲間の名前はそうだなリインだ」と言い僕の名前を勝手に決めて紹介し始めた。

シドまたの名をシャドウから聞きアルファはこつちを向き挨拶を始めた。

「お初にお目にかかりますアルファと申します、シャドウ様に助けていただいて共にディアボロス教団を滅ぼすために忠誠を誓いました」アルファから挨拶され少し感動しているとシドからなんか返してやれと言われた。

「アルファだったかこの世の悪であるディアボロス教団に立ち向かうとは命が惜しくないと言うことかなら共に戦おうではないか」とシドが言いそうな中二病みたいに言ってみた。

僕の言葉を聞いてアルファは流石シャドウ様の仲間みたいな視線を向けてきたが正直アニメを見ていたから話を合わせられただけだし中二病発言を喜ばれても痛いだけだから素直な眼差しが心に来た。

心を痛めているうちに話は進み僕はシャドウの仲間である程度良いとこの貴族だから情報を得るのに頼っているという設定になった。

その日は顔合わせだけで解散した。

僕はそのうちイプシロンに会えると心が躍っていた。

剣技を学んだり勉強したりシドと会ってクレア様に訓練でボコボコにされたりクレア様にシドの話をしたりしているについに運命の時が来た。

シドに久しぶりに夜に呼びだされたと思ったら七陰がそろっていた。

七陰に僕を紹介するとのこと。今回は呼び出したらしい。

皆の名前を聞いてるときにイプシロン可愛いと思いつながら彼女を見ていたらまた話が進んでいて設定の話されて僕が何か言うことになった。

また中二病みたいになんか言うかと思いついて適当に名前とそれっぽいことを言った。

「我の名はリイン、ディアボロス教団と言う悪に対し悪で対抗する者そしてシャドウの同志となる者」と言った。

七陰はなるほどと言った表情を見せたり様々な表情をしていた。

残りはシドに任せるとかと思いついて話を聞いていたらイプシロンが僕の家に来ることになった。

これが二次元に転生するご都合主義かと思いつながらその話を了承した。

イプシロンにスライムで変身してもらい僕の専用メイドの一人になつてもらった。

普段から魔力操作の訓練だったり勉強だったり剣の訓練だったりたまにボコボコにされたりを繰り返していたらクレア様が王都にあるミドガル魔剣士学校に行く前日になり捕まる日になった。

クレア様が捕まったことをイプシロンから報告を受け急いでカゲノー家に行った。

一応婚約者予定のクレア様が捕まったとなり知っていたが焦っている様子を出し探してみますと言いつつ一度自分の家に帰った。

夜になり昼にシドに言われていた場所に行き姿を隠してクレア様を助けた。

次の日になりクレア様が見つかったと家のメイドから報告を受けクレア様の見送りに行った。

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない4

クレア様を見送った日の夕方僕はシドやシャドーガーデンのみんなと一緒にいた

しばらくクレア様に会えないのもさみしいけどクレア様と訓練しなくていいのは楽だと思っていた。

そんなときにアルファが「シャドウ」とシドを呼んだ

その言葉に反応するようにシドが振り向いた

すると「私たちはあなたのもとを離れる時が来たわ」と言った

シドは少し驚いた顔をしたがそんなことを気にも留めず幹部となるメンバーたちは旅立ってしまった

僕は前世の知識もあるしイプシロンに事前に言われていたのでわかってはいたが少し悲しかった

みんなが旅立ってから3年の月日がたった今日僕とシドは王都のミドガル魔剣士学園に入学するため王都に向かっていた

あれから何回かイプシロンにあったり長期休みではクレア様と訓練をしたり一応婚約者らしく手紙のやり取りをしていた(ほとんどシドのこと報告してただけだったけど)

こんな感じで物思いにふけてっていると電車が王都についたようだ

ここは王都なだけあって自治領やシドの自治領より栄えている

一度王都についたが僕はシドと違い試験で手を抜かなかつたので特待生として入学したので寮が崖の中であり学園に近いのだ

荷物を置きに寮に行くと寮の門のところでクレア様が仁王立ちしていた

つかまりたくないなーと思いつながら前を通るとクレア様に首根っこつかまれた

相変わらず手が出る人だとか思いつながらクレア様の顔を見ると怒った顔をしていた

クレア様は僕を見ながら怒った顔で「仮にも婚約者が待っていてあげ

たのにスルーするなんてどうゆうことかしら」と言った

僕はやらかしたと思いきながら「長時間の移動で疲れてて見えなかったんだ」と適当に言い訳をする

もちろんそんな適当な嘘はすぐばれるわけで「本当は？」と冷徹な笑みを浮かべて聞いてきた

僕はその場で土下座し「シドのことで八つ当たりされるのが嫌で無視しようと思いましたが、ごめんなさい」と理由を言いながら土下座をした

もちろんクレア様は許してくれるはずもなくしつかり八つ当たりはされました

そんなことがあった後自分の部屋を確認して一度荷物を置きクレア様に呼び出されていたので外に行く途中で周りの学生になんかひそひそ言われながら見られていた

クレア様を見つけて声をかけると「シドはどこにいるの」と聞かれた

シドの住んでいるアパートはクレア様も知っているはずなので「アパートの場所ならクレア様も知っているとありますが？」と返す

すると「寮の場所じゃなくて今どこにいるかよ、どうせこの後会うんでしょ」とこの後の予定を聞かれた

特にシドと会う約束をしていなかった(クレア様に振り回されると思っていた)ので「特にこの後は会う約束とかはしてないのでどこにいるかはわからないです」と答える

クレア様は嘘ついてないかというような顔で少し見てきたが嘘を ついてないと思っただのか「じゃあしかたないわね」と言いシドのことはあきらめたみたいだった

その後は特に何かあるわけでもなく寮で歓迎会みたいなことがありひそひそされていたのがクレア様と仲良くしていたのと婚約者という言葉から僕を見ていたようだった

結局クレア様によっていろいろ振り回され疲れた僕は部屋に戻るとすぐ寝てしまった

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない5

入学して数日がたったシドはモブとしてうまく学院で過ごしているようだ

そして僕は全然平穩に暮らすことができないことが分かった

授業ではクレア様とシドから手を抜くなと言われ一度手を抜いたらクレア様に手合いを無理やりさせられたので手を抜けないことが確定したし私生活ではクレア様が引っ付いてくるので全然自分の時間はない

引っ付いてくるのが僕にデレて引っ付いてくれるわけでもなくシドを探すやシドの話をしるといシドのことで引っ付いてくるのでたまったもんじやない

それでも周りには僕とクレア様がラブラブしているように見えるみたいで男からはうらやましいと嫉妬の目と女の子からはそれはそれでうらやましいと嫉妬の目を浴びせられる毎日だ

そんな中で少しだけ変化があった

最近イプシロンが数日に一回会いに来てくれるようになった

夜に少しだけだがやっぱりかわいいイプシロンと話す時間は僕にとつての平穩だった

そして月日が流れ入学して7か月ほどたったある日事件が起きた

シドがモブ友達と呼んでいる友達と賭け事をして学園のアイドルに告白をしたのだ

そして何故か成功して付き合うことになった

その相手がアレクシア・ミドガルと言い王女だ

何故その話をしたのかというところクレア様に僕が問い詰められたからってわけだけでなく目の前に本人がいたからだ

剣を交えながら本人にどうしてシドと付き合ったか聞いてみたが「あなたの剣は嫌い」とわけわからないことを言われて無視された

そしてさらにシドが食堂でアレクシア王女とご飯を食べたらしい

寮に帰るとクレア様に聞かれてめんどくさいと感じた僕は町をふらふらすることにした

途中でシドの姿が見えたので尾行して話を盗み聞きするとアレクシア王女は教師であるゼノンと婚約したくないから当て馬として扱いやすそうな下級貴族のシドの告白を受け入れたらしい

なんか罰ゲームで告白したのがばれて脅されていた
ゼノンがあきらめるように時間稼ぎをするみたいだ

その後シドは結局金貨にめが眩んで犬になってた

寮に帰ったらやはりクレア様にいろいろ聞かれて憶測としていろいろ適当に話しておいた

それからしばらくシドとアレクシア王女はその辺で腕組んで歩いたりラブラブな姿を見せるようになった

そんな中僕はクレア様に毎日愚痴を吐かれシドシド言われ続けた
そしてさらに重大な事件が起こった

ある日の放課後からアレクシア王女が行方不明になったのだ

最後に一緒にいたのはシドだったのでシドがそのことについて疑われゼノン達騎士団につかまった

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない6

シドがつかまつている中僕はクレア様を必死に抑えていた

シドがつかまつたことによりクレア様は暴走し騎士団に喧嘩を売ろうとしていた

そんなことをしたらもちろんクレア様がつかまるしどうせシドはモブっぽい行動の練習とか言って拷問で遊んでるだろうからとりあえずクレア様を必死に止めることにした

しばらく経つとシドが拷問から解放された

その日の夜にイプシロンが来てシドのところにもアルファが行っていることとシドの無実を晴らす準備がもうすぐ終わると教えてくれた

数日たち準備が整ったようだったのでそのことをイプシロンが教えに来てくれた

人数は114人もいると言っていた

しばらくするとシドことシャドウとデルタが動き出したようだ

僕もシャドウガーデンの一員として行動することにした

久しぶりにスライムスーツを着てリインとしての姿になった

特にやることがないがイプシロンと一緒に後方支援を行うことにした

途中で飽きてきたのでイプシロンに「ちよつと遊んでくる」と言いディアボロス教団の雑魚狩りをしに行った

雑魚狩りをしながら町を飛び回っていると途中で怪しい奴を見つけた

見つけたやつを追っかけてみたらディアボロス教団の本部の方に連絡しに行こうとしている

偵察兵みたいなやつだった

そいつを襲おうと思いい剣を抜き背後から奇襲しようとしたがばれ

たように剣ははじかれた

「ただの偵察兵ではないということか」と小声で言うときいつは返事を
をするかのように言ってきた

「俺はラウンズ直属の偵察兵だからそこの奴より強い」

僕はその言葉にこいつシドがすきそうだなーとか思いながら剣を
振った

確かにそいつは強かったが僕からするとクレア様より弱い

相手は僕が剣を弾いているからか守るのに必死と思い「お前なんか
じゃ俺は倒せねえんだ」とか言ってきた

特に情報も漏らさなそうだしうるさいし終わらせるかと思いい相手
の剣を弾き逆の手からスライムソードを出し貫いて殺した

町の方に戻るとシドがアイ・アム・アトミックを発動したようで町
が少し破壊されていた

事件は解決したようでシドの無実も信用されたようだ

事件が解決して少しするとある噂が立つようになった

その名も死体のない殺人事件

僕は盗み聞きしていたので真実を知っているがアレクシア王女が
シドにデレて付き合うことになりそうだったがシドが断って斬りつ
けられたというのが真実だった

そしてその後シドは本をたくさん持った女の子と血だらけの状態
でぶつかってなんかフラグを立てていた

クレア様に近づきたいけどシドと仲良くしないといけないから近づけない？

唐突だが最近シャドウガーデンを語る不届きものがいるらしい
僕はイプシロンからこの話を聞いた

まあそんなことはどうせディアボロス教団の仕業だから置いておくとして問題は目の前にいるクレア様だ

「この前ピンクの髪の毛の女の子といい雰囲気になっていた」と冗談交じりで言ったらものすごく怒り始めた

さつきから「一度シドを拷問する」とか言って寮から出ていこうとする

とつさに僕が羽交い絞めにして抑えているがどうしたものか
そんなことを10分くらい続けていると寮長にめちやくちや怒られた

そして次の日になり最近できたガンマが経営をしているミツゴシ商會に足を運んだ

するとシドもちょうどミツゴシ商會に来ていたらしくガンマのところで顔を合わせた

シドと一緒に新しいナンバーズになったニューの紹介をされた

ガンマからチョコをもらいミツゴシ商會をこの日は出た

シドには一言謝ったが本人には文句言われるので何についてかは言わなかった

帰ってから僕はもらったチョコをクレア様に献上し今回は事なきを得た

クレア様が喜んでいるからミツゴシ商會に行つてよかったと思つた

次の日になるとシドの友達のジャガとヒョロからシドが漏らしたという話を聞いた

昨日の夜はシャドウガーデンの偽物を狩ったらしいがそんな演技をして二人から離れたのかと少しあきれてしまった

そして昨日シドから聞いたがこの二人は女子に近づこうとしたみたいだがヒヨロは失敗に終わったらしい

そして僕が学園の図書室で勉強しているとシドとジャガがなんか話していた

ジャガがいなくなった後この間のフラグを立てていた女の子にチヨコを渡していた

僕は見なかったことにしたがクレア様はどこかでその話を聞きつけたらしい

夜になってクレア様にそのことを聞かれたが知らないの一点張りで通そうとしたが僕が図書室にいるのは有名なのでだめだった

クレア様に見たままのことを話すとまた暴れだした

仕方ないので取り抑えてその日は事なきを得た

そして数日たち剣術大会が始まった

僕は特待生だから参加しないといけなかったので参加しているがシドも何故か参加していた

僕の相手は上級生だがあまり強い人じゃなかったため楽に勝てた

シドの試合を見に行くとシドの相手はローズ・オリアナ会長だった

シドがちゃんとやれば余裕で勝てる相手だがモブだからとか言っ

てあっさり負けると考えていた

何度もわざとやられて血を吐いたりなんかいたぶられていた

多分これもシドの言うモブらしい行動なんだろう

試合の結果はシドが途中で無理やり退場させられてローズ会長が

勝った

そしてジャガとヒヨロは賭けに負けていた